

# 多可町総合教育会議要旨録

## 令和4年度 第1回

1. 開催日 令和4年6月23日(木) 午後3時30分～午後5時00分

2. 場所 多可町役場 特別会議室

3. 出席者

町長	吉田 一四
教育長	越川 昌信
委員	安藤 和志
委員	岩田 光代
委員	木俣 美代子
委員	名生 陽彦

4. 陪席者

企画秘書課長	谷尾 諭
教育担当理事兼教育総務課長	藤本 志織
学校教育課長	吉田 勇二
こども未来課長	市位 孝好
生涯学習課長	藤原 徹
企画秘書課副課長	奥村 祐司
生涯学習課副課長	梅田 一志
教育総務課主査	有田 好孝
教育総務課	吉田 宏行

### 日程第1

会議録署名委員について

### 日程第2 協議事項

(1) 多可町生涯まちづくりプラザにつて

○子どもからお年寄りまでみんなが集うエリアにするためには

○学校など周辺施設との連携で考えられることは

○今後、まちづくりの拠点としていくためには

## 【開 会】

町長あいさつ

今年もはや半年が過ぎようとしています。

本日はお忙しいところ、定例教育委員会に引き続き、今年度初めての総合教育会議にご出席頂き誠にありがとうございます。

コロナの影響やロシア・ウクライナなどの不安定な世界情勢などにより、物価高、急激な円安などの社会や経済に大きな影響が及んでおり、経済格差の二極化や働き方改革など、ここに来て、様々な課題が専門的かつ複雑化しています。これまでの様に一つの部署で対応するのは難しく、横断的、総合的に対応していく流れが加速しています。

相互教育の視点から、その典型的な流れとして一つ目は、来年4月に創設される「子ども家庭庁」二つ目は、文科省が検討を進める学校部活動の地域移行など、時代はもはや、一つの部署における点の取組ではなく、組織全体、地域全体で縦の繋がり・横の繋がりを掛け合わせた面的な取組が求められています。

なお、多可町は学校給食に係る賄い材料費高騰分を国の地方創生臨時交付金で対応します。

本日の総合教育会議も、まさに、教育・まちづくり・福祉など総合的な観点から地域社会の中で皆さんに出番があるよう生涯にわたって知識を高めるための居場所となる「多可町生涯学習まちづくりプラザ」を議題にしたいと思います。

既にご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、今週25日（土）から3日間にわたり「多可町生涯学習まちづくりプラザ建設基本計画（案）」の住民説明会を開催します。

2月に「建設基本計画（素案）」の説明会を計画していましたが、新型コロナウイルスのまん防により延期になっておりました。

本日は、一足先に、教育委員の皆様にご説明いたします。その上で、次第の日程第2協議事項に明記しております、次の3点「子どもからお年寄りまでみんなが集うエリアにするには」「学校など周辺施設との連携で考えられることは」「今後、まちづくりの拠点としていくためには」についてご意見いただければと思います。限られた時間内での非常におおきな議題となりますが、委員の皆さんから忌憚のないご助言を頂きたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

### 日程第1

会議録署名委員について

安藤委員と木俣委員を指名

### 日程第2 協議事項

(1)多可町生涯学習まちづくりプラザについて

事務局：「多可町生涯学習まちづくりプラザ建設基本計画（案）」というこでご説明をさせていただきます。

今週土曜日、25日から26日27日と、町内3区で一般住民向けの説明会を開催する予定とさせていただきます。本日説明させていただく内容については、住民説明会の内容とほぼ同じとなります。ご了承いただきたいと思います。

この「多可町生涯学習まちづくりプラザ」ですけれども、以前には「仮称多可町

生涯学習センター」と呼んで検討してきた施設です。昨年度、検討委員会の方から名称変更の提案がありました。建設基本計画の素案以降、多可町生涯学習まちづくりプラザと呼んでおります。その経緯につきましては後程詳しくご説明を申し上げます。

さて、多可町では、第二次多可町生涯学習推進基本計画に基づきまして、生涯学習の施策を進めております。この計画に基づき、次世代のまちを担う人づくり、まちづくりをみんな目指して、新しい公共を支える原動力となる生涯学習体制の整備を目指しております。このような考え方に基づきまして、これからのまちづくりに対応できる生涯学習施設ということで、既存の施設の状況によりまして、中コミュニティプラザ、それから多可町図書館の機能を併せ持つ施設として、検討することといたしました。

合併以降、新庁建設計画の中で、生涯学習振興事業、交流施設等整備ということを位置付けてまいりました。さらに、総合計画におきましては、生涯学習の拠点となる施設を整備や建設の必要性を位置付けております。昨年度実施しましたアンケート調査におきましても、生涯学習の支援のためには、社会教育施設の機能の充実を図るべきという意見が最も多い結果となっております。中コミュニティプラザ、多可町図書館を取り巻く現状と課題を克服しまして、住民からのニーズに対応できる機能、そちらを付加することによりまして、乳幼児から高齢者まで、年代を問わず町民が集い、交流し繋がり活気あるまちづくりに生かせる。そういう拠点施設が必要と考えております。

実は過去には、平成25年度にも建設基本計画につきまして、検討委員会に諮問したことがあります。その際にも「建設基本計画提言書」ということで答申を受けたことがございます。翌年度以降建設に取り組む予定でしたけれども、役場本庁舎の建設時期と重なりまして、財政的に無理があるという判断から、建設は当面見送られた経緯がございます。その後、本庁舎が完成いたしまして、令和元年度に「生涯学習推進基本計画」を策定したことから、改めて建設検討に取り組むこととしまして、令和3年度から再度、検討委員会を開催いたしました。令和3年度の検討委員会では、各種団体の代表者、公募委員、アドバイザー、子育て世代の代表など、24名の委員さんにより、これからのまちづくりに対応できる施設とするための検討を進めていただきました。ちなみに教育委員さんにも前任の熊田委員さんに委員としてご参加をいただいたところです。またこれからの町を担う若い世代の考えを反映しようということで、中学生や多可高校生とのワークショップも行いまして、積極的に意見を取り入れました。またハード面だけでなく、運営手法、方針などのソフト面の検討も行いまして、結果、令和3年12月に、「仮称多可町生涯学習センター建設基本計画答申書」ということで町に答申をいただきました。答申書におきまして特に提案されたのが、生涯学習を通じたまちづくりの拠点施設であるということ象徴するために、多可町生涯学習まちづくりプラザと、名称を変更してはどうでしょうか。いうところと、もう1点が住民が運営に主体的に参加できる体制づくり、こちらを検討してください。こういう提言を特にいただきました。このことから、提案内容を尊重しまして、名称を「多可町生涯学習のまちづくりプラザ」その建設基本計画ということで町の方で位置付けをさせていただきました。

計画につきましては総合計画等の上位計画との整合を図りながら、中核施設となります。「多可町図書館基本計画」こちらと並行して策定をしております。図書館計画につきましては教育委員会の方の所管になりますので、今日のところは少し説明を省略させていただきますけれども、図書館と並行して計画を策定しておりま

す。

次に、中コミュニティプラザと図書館の現状、課題でございます。

中コミュニティプラザは旧中町中央公民館として建設されましたから、間もなく50年が経過します。経年劣化が顕著で耐震安全性も低い状態です。また主要な部屋が2階にありますけども、エレベーター等の設置はなく、バリアフリー化されておられません。その他にもご覧のような、現状課題がございます。また図書館につきましても昭和54年築の建物を、平成16年に改築、取り急ぎ本の貸し出しを目的として開館したというような経緯がございまして、どうしても生活動線上から離れている、なかなか行きにくい場所にあるのと施設も老朽化している、そういうような課題がございます。

改めて中コミュニティプラザ、図書館の概要をまとめております。

これら既存施設の現状と課題を踏まえまして、新しい施設の基本理念を検討をいたしました。あらゆる世代がお互いに繋がるまちをつくるため、その拠点施設として、基本理念、「地域社会の中で、みんなに出番があるように、生涯にわたって知識を深めるための居場所集える場の整備を目指す」ということといたしました。

また必要な機能としましては、大きく3つの機能について、それぞれ広場と名付けました。まず一つ目「学びの広場」につきましては、図書館を中心に、学びの場を提供する。二つ目「交流の広場」につきましては、交流スペースを中心に、かたらい繋がりを創造する。三つ目「表現の広場」につきましては、多目的ホールを中心に学習成果を発表表現する。そしてこれら3つの機能の調和循環が、「生涯学習のまちづくり」「生涯学び続けられるまちづくり」を実現するというふうに考えております。

検討いただいた施設の概要ですけれども、まず「学びの広場」では、図書館基本計画に基づきまして、中核施設のある図書館を整備いたします。またこれからのまちづくりに必要な機能としまして、男女共同参画のコーナーですとか、多文化共生コーナー或いは学生たちが気軽に使える自主学習室、その他には会議室等を検討をしております。二つ目「交流の広場」では交流スペース、今イメージしてますのは広めのエントランスホールみたいな感じですがけれども、そこを多目的な活用ですとか、世代間交流の拠点としたいと考えております。また子育て世代のためのキッズスペースですとか、各種団体でご利用いただけるボランティアスペース、そういうようなものも検討をしております。三つ目「表現の広場」ですけれども、会議室や軽運動等にも使用できるような多目的ホールを検討しております。規模としましては中プラザの大ホールぐらいの大きさの部屋になると考えられます。その他には管理に必要な事務所機能ですとか、付随施設としまして、駐車場や広場スペース、なども検討しております。また、防災拠点ですとか避難所となりうる機能、フリーWiFi等の設置も検討の必要があると考えております。こういうような施設概要を考えていく上で、配置イメージとして検討委員会で検討いただきましたのがこういうような図面がございます。施設規模としては約3000㎡です。あくまでも検討にあたっての配置イメージですので、このとおり造りますということではございません。今も具体的な施設規模ですとか、部屋の配置については、検討を進めているところです。

次に建設候補地につきましてです。建設候補地につきましては様々な場所で、面積、市街地機能を周辺施設との連携、或いは相互利用、そしてにぎわいの創出ということを考慮しまして、総合的に判断しました。その結果、現在の北アリーナ、アスパルの近くの体育館がありますけれども、その位置が望ましいということで検討

いたしました。自然環境が豊かで、アクセス性にすぐれ、近隣施設との連携や相互利用を期待しております。アスパル、子育てふれあいセンター、児童公園、そして現在検討中の統合中学校、これらの施設を中心に位置し、活動エリアゾーンが形成できる。相互利用が期待できる場所と考えたためです。

まちづくりプラザにつきましては、生涯学習の振興、また、まちづくりの拠点施設と、今後のまちづくりの拠点施設というふうに考えております。そのためには生涯学習のコーディネーター、そういうような位置付けのものの配置が必要かと考えております。また町民が集い、交流し、繋がる仕組みづくりを検討いたします。また親しみを持ってご利用いただくためには、愛称の公募等も検討していきたいと思っております。

最後に、今後の課題と、整備スケジュールでございます。

まず課題1点目としましては、多くの町民にご利用いただけるために、交通アクセス、バス停等も含めて、周辺もですけれども、そういうことも総合的に検討をしていきたいと思っております。2点目、住民団体ですとか、民間事業者のノウハウを活用するために、住民との協働による施設運営の検討、こちらを考えていきたいと思っております。実は今回の説明とちょっと前後するんですけれども、今、生涯学習まちづくり委員会というものを立ち上げまして、今後の施設運営の検討を進めていただくという委員会を別途立ち上げました。今からこれから住民の方と共同しながら、今からの施設運営をどうしていくかということの検討を始めていくところでございます。

それから、整備スケジュールでございます。理想的なスケジュールとしまして、令和7年度の竣工を目指しております。今年度が令和4年度になりますので、今から施設の設計に入っていきますので、できれば令和5年度から建設工事、令和6年度中に工事終了しまして令和7年度供用開始ということで検討しております。これはあくまで理想的なスケジュールでありますので、今後事業スケジュールまた精査していく中で、変更の可能性もございます。

以上簡単ではあるんですけれども、今現在の「生涯学習まちづくりプラザ」の検討内容についてご説明をさせていただきました。どうも、ありがとうございます。

町長：それでは説明が終わりました。

これからレジメに沿って協議事項の方に、具体的にテーマに沿って入っていきたいと思っております。

3つのテーマで考えておりますけど、まず一つ目でございます。

「子供からお年寄りまでが集うエリアにするためには」という項目について、ご意見を頂戴したいと思います。

委員：多可町の壮大な計画が、もう動き始めているというふうなことです。

先ほど教育委員会の方から、統合中学校、小学校はまた検討中ということになりますけども、統合中学校の話が出ました。その中で、この生涯学習まちづくりの中に、意志するというアイデアが、描かれているようなんですけども、私も以前に滋賀県の近江八幡の小学校へ見に行かせていただきました。その時に感じたことは、子ども達はやはり町で、村で子ども達を支える、育てるといような言葉もありますけども、支えるという、そういうふうなことが、近江八幡の方では、私の目には感じました。というのは廊下を歩いても、学校に入っても、子ども達が本当に落ち

着いて、学習、または休み時間、またグラウンドで、動作をしているんです。何でこんな雰囲気になるか、後になって気が付くわけですけども、後からの反省会の中で先生方とか、他の方々とも意見交流を聞く中で、隣のおじいちゃんおばあちゃんが、学校の近くにおられると、学校の敷地の中で、編み物をしたり、それから趣味の、囲碁将棋だとか、グラウンドゴルフだとか、年配の方々がよく、学習また体を動かされている、そういったことを、学校の隣のおばちゃんおじいちゃんがおられることも、子ども達には関係するのかな、直接空気には見えないけども、そういった暖かい空気が常に子ども達の周りにあるのかなというようなことも、ちょっと聞いたりしながら、近所のおじいちゃんおばあちゃんが学校の近くに、おられるというようなことを感じながら、学習している。それも、子育て子どもを支える地域の力になってるのかなというようなことを感じました。そんなところから、多可町も、どういったまちづくり計画があるのかなと思ったところ、今説明していただきましたように、図書館を、起点とした、西脇市でいうとmiraie(みらいえ)のような形の、みんなが集える場所に学校も一緒にそこにある、そういうふうな空気は、本当に今までは、少なかったかな、学校なら学校の中だけでポツンと離れて設置されて、生活する場面があったんですけども、最近はやっぱり子ども達を支える一つの大きな空気をその時には感じました。そういった方向に、多可町もいよいよ舵を切って、動く方向になっているのかなというようなことを感じております。できるだけ、この計画は年数がかかると思うんですけども、前に進んでいきますように、願うところです。あと、私は八千代区から来させてもらってるんですけど、八千代区の中で村の仕事も並行して、さしてもらっております。

役場に教えていただいた、役場から聞いたようなことが、案外、ここから離れると、こういった資料も含めて、計画も含めて、温度差が凄くあると感じています。役場からの発信が、細部の方にまで届いていない、届いているけども、なかなか離れたところに住んでる人たちは、なかなかそういったことが、たかテレビや、広報やとかいろんな発信機能があるんですけども、ちょっとまだ十分に届いていない、非常に温度差があるんだなと感じたりしております。こういったプログラムの計画も含めて、難しいですが細部の方まで伝わるような形も考えながら、大きな計画を進めていただきたい。

委員：初めて、このまちづくりプラザの概要を見せていただいたんですけども、自分なりにいろんな形で今まで、ものづくりに携わってきたんですけども、その中で、ふっと思った時に、まちづくりってという言葉がありましたんで、内容を見てましたら、集まって来られる方の思いは、ここに集約されてるような、例えば、カフェスペースとか茶コーナーが欲しいとか、というような形での集約ある、それはそれで十分なんですけど、ふと多可町が今から直面する、大きな問題とすれば、多分ここへ来れない年齢層の方、を含めたまちづくりを考えたときに、このままで良いのかなっていうちょっと思いが、今日の資料をちょっと見ながら、じゃあどうやって山寄上とか、大屋とか離れたところで暮らされてる方々がいらっしゃいます。その方々と、このまちづくりプラザがどうやって結びついていくのかな。そこからお越しになる方は多分利用されていくんだらうなと思いながら、やっぱりこれだけの施設を造りますんで、できれば、本当に新しい試みっていうんですか、多可町独自のまちづくりの考え方として、一度その辺もやはりゆっくり吟味して話していく、どんな形の答えが出てるか僕も想像がつかないんですけども、やはりまちをつくってもらう一人一人の方々が、必ずしも全員ここへ足を運ばれない、運ぶこともできないだ

ろうと思いますんで、ちょっとそこら辺のところからのちょっと吟味もあってもいいのか、多分長い話し合いの中で、結論が出るかどうかは、それはわかりませんが、それも一つの試みとして、多可町が、取り組んでいくのも一つの手なのかなってちょっと思いながら、計画を聞かせていただきながら思いました。

委員：町挙げての長年の夢・希望、本当に素晴らしいプラザに、計画されていることを本当に住民、町民1人として嬉しく思っておるところなんですけれども、やはり、プラザは行けば何かができる、誰かと話せる、始める、生きがいがあるっていう内容があるし、また、乳幼児から私たち、私のような老人まで憩いの場となって行くことは、間違いないと思うんですけれども先ほども言われてました、交通の便、バスに乗れる人は行きますよ、運転できる人はもちろん行けますよ、でも、行こうと気持ちはあっても、そこへ、その場に、体を持っていけないという、そういう人達の思いなんかはどうなるのかなと思ったりもしました。

今から中学校も、統合されていきますので、その辺のバス通学のこのことでもありますので、交通の便は多分、うまいことローテーションが回るようになっていくのかなとは思いますが、その辺がちょっと私の目にはまだ見えてこないというか、全然わかってないところもあるんですけれども、見にくいかなと思ってしまいました。そして中学校の統合が令和8年度、そして、この計画が令和7年度ということになっておりました。そこで、中学校の、統合に向けて、令和7年度から中学生たちがそこで勉強し、ちょうど遊びと学びの広場ですかね、自習勉強ができる部屋っていうのがありましたので、そういうところを大いに中学生が利用してくれて、もちろん小学生も大人もなんですけれども、統合した時点で中学生がこの広場を、遊びの広場を利用して、帰って、お家の人たち、お母さんに面白いところあるで、私あんなところで勉強したらものすごい良くできるでっていうようなことで、広めてくれたら、またおじいちゃんおばあちゃんい行こうな、連れて行ってあげるで、バス通ってるでっていうふうな形で、少しでも家に帰って広げてくれたら、広がりができるのかなと思ったりもいたします。大いに図書館が充実しますし、ちょっと先日余計な話になるんですけど、いじめの話で本を借りようと思ったら、ちょうどその本がなくて、申請してもらったら、大丈夫ですよっておっしゃってくださって、そ名前書いて、その本名を書いたら、二週間もしないうちに、加美プラザに届きまして、すぐ取りに行かせてもらったんですけれども、図書館の利用ってすればするほど楽しくなるし、ものすごく協力的に動いてくださるので良いなと思っております。子ども達が、本当に図書館を利用するっていうことは、初めはちょっと難しいかなと思いつつ、入ったら1人でも多くの人が入ったら、きっと良いものになるうかと思えます。1人でも多くの方に、そういうところを利用してもらえたらと思えます。

町長：委員さんが、おっしゃったお年寄りの件なんですけど、老人福祉施設、八千代区にありました林泉荘、中区のおもいで荘、両方とももう無くしているんですね。加美区にある春蘭荘がまだ何とかこの3月末まで動いてたんですけど、今年度4月から閉めてるんです。福祉の担当課の方から、老人福祉施設というのは当然必要な施設でありそれぞれ各3町が建てていた施設です。福祉の担当課長から言わせたら、お年寄りを集めるよりも、みんなが集まる場所にお年寄りが行く方が良く、そこで子供と一緒に遊んでもらったり、子どもの面倒を見てもらったりする方が、老人福祉施設の機能としてはありがたいです。っていうふうに、それはもちろん利用された方の意見を、担当課

長が言ってくれたんだと思うんですけど、そういう意味で、今度のプラザの中に、その機能をつけることによってその機能を付けるということの中で、お年寄りが集める形については、少し方向を変えていこうかというふうにしています。ご老人もそうですし、担当する課長も、その方がお年寄りにとって良いというふうに言ってくれていますので、そういう方向で考えていく中で、どういう形でスペースがとれるかわかりませんが、とにかく、お年寄りから子どもまで、子ども達が少なくなっていますけども、それを見る高齢者は高齢化で増えてますので、しっかり子どもを見る目が増えています。私はいつも言っているのですが、子どもを見る目が増えてますのでそういう機会を作ることによって、子育てについても、ステップアップできたらと思うそういう施設になればと思っていますので、ご指摘いただいたことについては、ぜひ実現したいなと思います。皆さんおっしゃっていただいた、わくわくが一番大事なんです。職員が今、わくわくしてると思うんです。どんなふうに造るかを、今考えてるいろんな実行委員会で、いろんなことであれがこれがという話をして、また委員会に入っていたいただいた方々がいろんな意見を言っていたく、なかなか全部ができないんですが、予算がありますから、皆さんがわくわくしていただければ一番うれしいと思っています。おっしゃっていただいたことが1つ1つ実現していけたらと思っています。確かに変えにくい、まず、交通手段もそうですし、引きこもられる方が、まず出て来てもらえるような、面白い施設にすれば、まず交通機関は断然大事に考えないといけない、だけどそこへ行こうかなって思ってもらえるような、施設にしないといけないですね。

おっしゃっていただいた1つ1つが実現できるようなテーマになればと思います。

教育長：やっぱり子どもからお年寄りまで、みんなが集うエリアにしたいという町の思いがあって、それに応えようと思うとハードソフト両面でこれを考えて、やっていけないといけないかなという様なことを思っています。まずハード面についてなんですけど、やっぱり交通弱者であるお年寄りが寄りやすいようにしようと思えば、やっぱり公共交通機関がそこに集約できるような、そういう仕組みを造っていかないと、なかなかできないんじゃないかなという様なことを思っていますので、そういうハード面の、整備が当然必要になってくると思いますし、生涯学習まちづくりプラザの建物の、その中のこと、こういう機能を持たせたいという、夢はあるんですけども、当然時代とともに、人々の求めるものが変わってくると思うんです。だからある程度時代と共にフレキシブルに対応できるような、そういうものであった方がいいんじゃないかなと思います。学校現場におりまして、一頃コンピューターの教室がすごく流行りました。絶対に、このPCを置いて、そういうのをやらないといけないことで、どの学校にも造られたんですけど、結局はすぐに使われなくなってしまいました。すごいお金かけて整備されたと思うんですけども、そういう状況があります。ICTの進化はすごいものがありますので、だから、そういった時代の流れにも柔軟に対応できるような、そういうハードを整備していかないといけないかなと、ちょっと感じてるところです。

将来的には、トランスフォーメーションというんですか、どんどん、そういうふうなことが進んでいって、その講座自体も、オンラインでやったりとかいうようなことも、今以上に増えていくんだと思います。特に国がやってる意識調査とかを見ましたら、20代30代40代、若い人ほど、どういう講座に参加したいのか、またどういう形で参加したいのか、というふうに聞かれたところが、やはりオンラインのそういったネットを通した講座であれば参加できる、参加したいという希望が多か



ったという調査結果も出ています。ですから、そういったところにも対応できるようにしていかないといけないと感じてるところです。それからこれは、教育委員会の子育てふれあいセンター、児童館の運営委員会が出ていて、去年よく出た意見なんですけども、魅力的な講座とかイベントがあっても、なかなか、それが必要とされる方のところへ届いていないと。それを届ける方法としてどういう方法があるのかということで、スマホからの申し込みができるように、考えられないかということで、QRコードを活用して、申し込みをするようなやり方に変えていったところ、そのQRコードによる申し込みがかなり増えたということがありました。ペーパーベースとかそういうふうな申し込みとかじゃなしに、できるだけ情報をうまく、今の必要とされる形に合わしていきながら発信していくことを、これからのソフト面では考えていかないといけないかなと思っています。

町長：テーマ3つをこなしていきたいと思いますので、2つ目のテーマに行かしてもらいます。

「学校などの周辺施設との連携で考えられること」っていうことなんですけど、A3の紙を付けさせて頂いております。まちづくりプラザが今の北アリーナがあるところに建設しようとしております。北アリーナはヴィアという厚生省が昔建ててくれた施設でして、大分古くなっておりますので、壊してそこに建てるということと、その隣に統合中学校についても、先程お話があったと思いますけども、そのような形で今、位置付けを考えて、現在あります都市公園なんですけど、都市計画公園については定められた面積を代替地という形で、新たな面積を確保するというのが、公園整備法の約束になっておりますのでそれを今の、現在の中学校の方でグラウンドとか、中学校の体育館とか格技場とか、教室の部分も取り壊してその面積の確保にしたいというような位置付けがこの今のグラウンドデザインとして出さしていただいているところです。これもなかなかここに落ち着くまでには大変紆余曲折がありまして、議会の方でもご説明し、中区でほぼご理解賜っているんが、どうして中区に造るんだという意見もまだまだございます。中プラザ等の建て替えですから、一応中区に建てることをご理解をいただくことを一生懸命、言わしてもらったんですが、なかなかご理解を頂けない中で、中区でこの場所というふうになってきております。これについては、いろんな方がご検討いただいたり、町の全体的な都市計画の中でもこの形でありなのかなと、これで進めたいと今、我々としては思っておるところなんです。周辺スペースとしてアスパルであり、中学校ということになってこようということでございます。子育てふれあいセンターも、隣接地になりますけども、この幼稚園も大分古いんです。子育てふれあいセンターも将来に向けて考えないといけない施設であると思います。機能的には、子育てふれあいセンターは、大事な機能ですので、生涯まちづくりセンターを使わせて頂こうと思っています。

教育長：今、建設場所が、まちづくりプラザについては、北アリーナが建ってる場所を取り壊してそこに建設するという方向で進められています。地図を見ていただいたらいいように、アスパルとか、中学校とか、子育てふれあいセンター、児童広場、色々な施設があって連携を取りやすいというふうなことがあるんですけども、連携でどんなことが考えられるかというふうなことなんですけど、やっぱり、中核施設として多可町図書館が入ることが、1つ大きい事だと思います。教育絡みで言いますと、やっぱりそこに図書館ができるということで、今まで以上に中学生が図書館を利用するようになるんじゃないかなと思います。

すべての子ども達が自転車通学できるというわけではなく、加美、八千代の子ども達はバスで通学しないといけないので、当然待ち時間とかが出てきます。そういった時間が出てきた時に、多可町図書館に気軽に訪れて、そこで勉強をしたり、今まで以上に本に親しんだりとか、そこで時間を有効に使うというふうな使い方ができるんじゃないかなと思っております。

統合中学校の方に、できれば学校図書館司書という図書館に専門の職員を1人置いていただけたら、ありがたいなと思ってます。学校と多可町図書館の司書さんが、連携をとっていただきながら、上手く指導もしていただきながら、こういうふうにした方がもっと良いですよ。みたいなアドバイスも直ぐにいただけることも、考えていけたらと思ってます。

福岡県の、ある町では、図書館長が学校図書館司書の上司みたいな感じになって、そこで色々こういう事をやってみましょう。とか言うて、そういう仕組みとかディスプレイもそういうのも含めて、多可町図書館の館長や、司書さんが、学校、図書館の司書さんに、色々アドバイスをするというシステムを取られてるようなんですそれが上手く行ってるというようなことも聞いてますので、そういう連携の仕方ができるんじゃないかと思えます。

委員：子育てふれあいセンターは、古くなってるねっていうお話も出ておりましたけれども、部分的には床を張り替えてあったりしています。先日、トライ・やるで行かさせていただきました。そのときに、庭の方を見せていただいたりしたんですけども、前は土だったんですけど、今、クローバー畑といいましょうか、綺麗なクローバー畑になっておまして、子どもがはだしで遊べるぐらいの、とても良いふれあいセンターになっておりました。そのふれあいセンターのその流れで、今もお話にありました図書館であったり、その、多可町の一番の中心である、そのプラザに、集えるというのは、最高に良いことだと思わせてもらってます。もちろん、あそこに、私いつも言っていますけども、プールもあります。プールも大いに理由の1つとしていただいて、そして、夏はプールも加えていただいて、そしていろんな活動の、一番の拠点であるプラザになればな、ありがたいというふうに思わせてもらっています。

子育ては、先ほども委員さんがおっしゃってましたように、1人では大変本当にしんどい、でも周りの人たちと、1つの目2つの目10の目があれば、もっともっと気持ち的に楽になってきます。そういう、たくさん目の中で子育て出来るという事は、ありがたいことですので、そしてその子ども達が、人間的に豊かになってきますので、そういう多可町になれば、もっともっと良いのではないかな、不安に思ってるお母さん方が、1人でも減り、1人でも、こういう場に行って、楽しく集える場、楽し心穏やかに。母親って結構イラッとしたり、苦しくなったりしますので、そういうことが少しでも軽減されるような、そこに行けば、そういう軽減ができるような、そんな場になって欲しいというソフト面での話ですけども思えます。もうここに行けば、このプラザ周辺に行けば、全て叶えるよっていうような形であって欲しいなというふうに思えます。

委員：考えながらちょっと今もお話を聞かせてもらってたんですけども、多分1つの所に、いろんな施設を集めていく、連携性を持っていくっていうのは、今から先、やはり町の機能としては1つのありようかなあとは思っています。ただ、やはり教育関係の施設が主に来てるんですけども、対象対象がやはり年齢で、区分けされていく

ようなところで建ってる所もありますので、やはりその連携が本当に、難しいですね。でこれだけのものを造るのであれば、やはりその連携を、どう高めていって、本当に、生み出せるような場所になったら良いなっていう思いはあります。そういうふうにして、今ちょっと考えてたんですけども、やはり、私も役所勤めして沢山の建物を建てましたけども、その中で実際に線を引いたわけではないんですけども、やはり管理上の側面から、外構でフェンスを作ってしまうんですけども、どうしても、学校であれば保安上の問題がありますので、不審者のところをありながら、でもやはり統合的に一体的に、暮らしていく或いはそこで営みをしていくのであれば、その垣根は垣根で、少し、取っ払った方が良いのかな、そう言いながら、ちょっと悪いことをしようという、中学生は大分自分の経験でもありますんで、ちょっと横に行ってみようかな、と言いながら、問題行動も起こすやろなどは思いますんで、なかなか難しいと思いつながら、今も委員さんの意見聞きながら、やはりその子どもが、よちよち歩きの子どものがとことこと歩きながら、生涯学習の方のに行っても、それはそれでもありなのかな、だから、そういうことをしていこうと思えば、やはりそれなりの人の配置が必要で、公の施設になりますんで、やはり事故の心配もあるし、非常に難しい問題がここに横たわってるし、やはりここへお越しになる方々の共通理解なり、思いが揃っていかないと、有効な活用も難しいのかなと、そんな感想は持っています。

やはりこれだけのものを造ってきますんで、それなりの覚悟はされてるんだろうし、ただ、一番ちょっと心配なのは、やはり職員の方、コーディネートされていく連携にしても、子どもから大人まで広い年齢層にアプローチしていく、職員の方の専門性も含めて、やはり大きな問題で、その覚悟が、皆さんに、あるのか。多分、スペース的に施設の配置イメージからすれば、職員の方々がそれほど多くは配置はできないんだろうなと思いつながら、やはり、そのところの少し検討なりはしていないといけないのかなというの一番目のテーマ二番目のテーマの中でちょっと考えさせていただいたところですよ。

委員：この図を見てたらやっぱり、図書館を利用するのは、まずは中学生の子が多いのかなと思ったんですけど、バスの待ち時間がどれぐらいになるかわからないんですけど、やっぱり基本中学生の子は部活動をしたりして、結構遅い時間まで部活するので、その後、図書館に行ってゆっくり本を見てっていうのは、なかなか難しいのかなと思います。ネットか何かで、借りたい本を検索して予約といいますか、借りたいという形にして、部活があってバスまでの時間に取りに行くとか、職員の方がしてくださるんですけど、持って行ってくださるとか、そういうことをしてもらったら助かるのかなと思ったりもしたんですけど、そうしたらそれ以外の方が実際借りに行ったときに、本がないってなるのかなって思ったり、ちょっと今ググルと調べてたんですけど、図書館を利用してくれるようになればいいなと思います。

委員：この前から学校訪問ということで、各学校を回らせて頂きました。また、前回にも、学校の様子をみせていただきました。私が頭の中に入れていた中から、見る学校とそれから外から見る学校とちょっと違うんですね。最近よく外から見せてもらうんですけども、ほとんどの小学生ですけども、子ども達は落ち着いて学校生活を送っているように思います。昔が悪いとか、今が良いとかそういうことではなく、昔は、また昔で、規則や決まりってな感じで前面に子ども達に接していたかもしれないけども、最近は子どもと先生がおんなじ目線になって、授業や学校内での動きを

されている。本当に子ども達をしっかりと、抱きしめるような感じで、近くに寄せて話をされている。子どもは、先生だけじゃなく、どこで大きくなってるか、友達の中で大きくなっている。友達の中でも悪さをしたり、紙を投げたり、消しゴムを投げたり、足で蹴飛ばしたり、イスを引っ張って転かしたり、そんなことする子はほとんど見かけません。廊下の中を走り回ったり、窓から出たりと、そんな姿はほとんど見たことないです。それは、私たちがお客さんとして行ってるから、しないのかというようなことではなく、私の目から見たら、普段からそういった仕付けか思いやりが最近小学生の中に、中学生もですけども、育っているのかな、身につけているのかな、そういうふうな様子を、多可町内の学校をずっと訪問させてもらっている間に、子ども達は、随分落ち着いてきたなということを思いました。中学生にしても、窓から出入りしたり、窓から黒板消しを投げたりする中学生がおりましたけど、そんな子どもはいませんし、そんな場面も見ません。また、多可町内の学校は本当に子ども達は落ち着いて、授業等しているので、できたらそういった雰囲気、今度は総合的なこういった大きなまちづくりの中で、子ども達を支えていってもらったらなと思います。あとは、やはり心配するのは、やっぱり、いじめとか不登校とか悩みを持った子ども達のことです。これはいじめた子も弱い、いじめられた子にもあるかもしれないけども、やっぱり、お互いに、思いやる気持ちを育ててやったら、何とか乗り越えるのかなと思うんですけども、その学校にしても、図書館にしても、ちょっと、管理がきちっとできることで、個室があれば助かる子がたくさんいるんじゃないかなと思うんです。学校の中には大きな部屋しかないというような学校もありますし、できたら個室があって、最近特有の、ちょっと悩みを持った子ども達を支えるという場面があって、また図書館にしても、大きなフロアで、みんなが自由に読めるというのも良いけども、図書館に心の支えができるような小さな部屋があっても良いかなと、そんなこともあったりしながら、学校の角度から見た、子ども達を支えるということで、そんなことを感じました。

町長：ありがとうございます。本当にご指摘のとおりだと思います。

それでは「今後のまちづくりの拠点」ということなんですけども、これが1番大きな問題というか、ここにしっかりと方向づけをしていくということで、生涯学習課の話もありましたけど、住民の方々にご協力をいただくというのが、今メインの形になっています。役場がっていうのではなく、住民主体の方でそういう管理をするようなグループなり、いろんな組織立てができないか。そういう形も今検討しておるようでございます。これについて何かありますか。

事務局：生涯学習課、藤原でございます。やはり組織につきましても、行政が直接の職員としてやるというよりは、ちょっとそういう民間発想というなものを取り入れやすいような組織として、ある程度予算というものもあるんでしょうけど、発想に柔軟に対応していけるような組織が良いんじゃないかっていうのも、模索していく必要があるっていうふうに思っております。そういうなことも含めて、メンバーを集ましたところ、応募よりも沢山の公募がありまして、非常にこの施設自身に期待も寄せられているというようなこと、それから、遠くの市町の方からもちょっとそんな造ってんやったら手伝をいさせてくれへんとかコンサル以外ですけども、そんなこともお言葉を頂いておりまして、結構多可町がどういう施設を造ってどういうことを、そこでするのか、非常に予想外に注目されてるような状況でございます。なのでこういうことを企画したいというのも、ちょっとは、そういう面でも、反響が

あるというような状況でございますので、今言いましたような中身につきましても、運営に付きましては町丸抱えの町、というよう部分ではないようなものっていうような形で、考えていきたく思っております。

教育長：町を元気にしようと思ったら、やっぱり、どっかが中心になって、原動力でいろんなアイデアを出して、それで元気にしていく、それも行政からトップダウンじゃなしに、ボトムアップいう形でしていくのが、一番望ましいんじゃないかなと思います。そういった意味で、生涯学習まちづくりプラザの中にそういった、主体的にまちづくりを考えていって、まちづくりプラザの運営もやっていきたいというふうなグループがいらっしゃるというのは、凄いことだと思います。

ベルディーホールができた時も、自分たちでベルディーホールを盛り上げていこうということで、長らく活動されておりました。すばらしい取り組みでして、取り組みがあったからこそ小さいホールなんですけども、できないような大きなことを色々とされたというふうなことがありました。その方向は、これからも大事にしていかないといけないかなと思います。

今、生涯学習課の方で、まちづくりに提言をしていただく、そういう学びの場を作っていただいておりますけども、ああいった人材を育成するとか、自分たちの町の問題点、課題を自分達で見つけて、自分達で解決方法を模索していくそういった講座というのはすごく良い講座だなというふうに思います。ああいうのを、今学校でも探求型の授業と言って、STEAM教育もその流れになってますけども、自分達の身の回りにある問題を自分達の力で協力しながら解決していこうということ、もう小さいうちから、そういうことをやっていこうという流れになってます。ですから、そういった生涯学習の学びができるようにしていかないといけないなど、それにはやっぱり、それをうまくリードしていったり、コーディネートする人材、そういった人材を育成していかないといけないかなあと、これは、ほっといてもそんな人材が育たない、学校教育の中でもその重大な使命になってるわけなんですけども子どもたちも、生涯学習まちづくりプラザでされてる方々の様子を見ながら、こういうふうにしていって町を良くしていこうとされてる方がいるんだなということ、学ぶことによって、その次の世代につないでいけるような、そういったことができたなら良いかなというふうなことを思ってます。あと様々な講座がされてて、それで学ばれてるわけなんですけども、魅力ある講座を作っていただくのもすごく大事なことなんですけども、インプットしたことをアウトプットする場ですね。このインプットとアウトプットが上手くいったら、これはいい流れになって来ると思います。インプットだけだったら駄目だと思いますんで、今度は教える側に回ってもらうと、学んだこと、それをできれば、子供たちに教えるとか、他の世代に教えてもらうとかというふうにして、世代間交流がなされていったら、すごくいい流れになっていくんじゃないかなというふうなことを私は思ってます。

委員：今いろんな講座があれば、子ども達って飛びつきますよね。先ほども児童館の話、をちょっとしたんですけれども、児童館に行ったら、いろんな講座を計画して下さって、そして、図工であったり、書き方であったり、いろんな項目があるんですけれども、そんなんに子どもって飛びつきますし、今の中プラザの方でも、茶道を小学校、4年生から6年生だったかな、茶道を計画して下さって、それに、中区の方は結構行かれて、八千代区と加美区はやっぱり遠いということで、少ないんですけれども、そんなんでも、児童館でもやっぱり中区が多いということもあった

りするんですけれども、そんなんでも魅力があれば、このプラダに、行くと思いますし、子どもって少々、遠くでも魅力があれば行くと思いますし、親が送り迎え大変かなと思ったりもするんですけれども、そんな事も子どもには負けますので親というのは。それで、行ってそしてその長い10年、20年先のことを考えよったら、その子たちが大きくなって、そしてまた自分からこう返していけるような、そんな人材に育ってくれたらなというふうに思います。

もう私のような歳になってしまったら、どうしても引っ込み思案的なことになってしまいますけれども、それでも行ってみようかな、何かこう、新しいことに、挑戦までもいきませんけれども、何かを使用かなという気はあります。誘われたら、そうか、パッチワークでもしてみようかなというふうな気持ちになっておりますので、その辺あたりからでも、自分の一番身近なところから、手芸とか網本とかいろんなそういうところからでも良いからして行って、そして、それを教えるところでもいきませんけれども、でもその中の1人として、住民の1人として、そういうふうに積極的に動けたらいいな、そんな夢かなと思うんですけれども、そんな住民の1人でありたいなと思います。

委員：中々難しい問題なんですけれども、自分の経験からすれば、加古川市に勤めてましたんで、加古川市に私が入った大体、55年当時、公民館が9館ありました。それぞれの地区で、その当時、私は、そこ行って何もわからなかったんですけど、やはり相当全国レベルでも、高い活動を公民館単位で、市の職員、それからずっと小中学校から利用した若い子が中心になって、自発的な活動されてたようですし、それが、加古川市の社会教育の、大きな特徴であったように思います。そういうふうな流れが大体入った、55年ぐらいから少しずつ変わって昭和の時代までは、やはり自発的な活動が続いていったように思います。ただ、加古川市として、そこで従事した職員を事務職の方に、登用していったり異動をさせて行って、やはり中核的な公民館活動をする職員が、やはり、手薄になってきた。その中ではやはり、それぞれの公民館で自発的な活動が、どうしても行政っていうんですかね。市との繋がりが薄くなってきて、だんだんだんだん衰えて来たことは確かです。最終的に、もう令和になれば、ほとんどもう公民館はもう貸し館でしかない。もうそのレベルでしか活動できなくなって来てます。だから、昔はそれなりの合併で大きくなった市ですので、やはり9つほどの、地区に分けて行って、それで一つは社会教育的な活動を、そこでやってたんですけれども、もうそれすらできなくなって来てしまってる。やはり、どこかでちょっとボタンのかけ違いがあったのかな。確かに9つずっとあった公民館も貸館でしか、もう存続できないような活動を支えられる職員もいないような状態になってきてます。でも、だからといって利用者が、そこにいらっしやらないかっていうことではないんですけれども、やはり小さなサークルになって、横同士の結びつきとか、コーディネートして地域的な広がりが、だんだんだんだん希薄になってきてるところを見てきてますんで、今まちづくりとしてスタートされるのであれば、やはりどこか、町と、そこで自発的に、活動される方々との結びつきだけは失わないような方策をとっていかないと、やはり10年、20年っていうスパンの中で考えていったら、やはりどこか寂しい結果になるのではないかなっていう心配はしてますんで、ずっと一番目のテーマからの話の根幹のところは、本当に自分がいた市役所の時代を最初から見ていて公民館がもう貸館でしか存続しない、そういう意味ではもう市役所の中で公民館、まちづくりプラザとは少し違うんですけれども、もう廃止するかっていうのもリストラしてしまうかっていうようなところもありな

がら、やはりそこで活動されてる方がいらっしゃると思いますので、もうすべて預けてしまったらいいんじゃないかっていうところでも貸館、ぐらいになってますので、もうただ、詳しくは知りませんが、確かに入った段階昭和の50年代から、もう40年代ぐらいから大分活動されてたみたいです。だから相当、すごくもう自分たちで、小さな子ども達を、キャンプに連れて行くとか、それには職員も関わって活動されてたみたいです。そういうふうな活動が少しこう、多分そのときはほとんど公民館がそういった場所ではなかった。調理室しかなかったところで、そうやって自発的な、若い人たちを中心した活動があったし、婦人会にしても老人会にしてもあったようですから、やはり加古川市も手を引いた時があります。だからそれが多分、昭和の終わりから令和の初めぐらいのところ、少しこう手を引きかけてから、つるべ落としに活動は、低調になっていった。もうそうなったらちょっと、てこ入れしてもなかなか元には戻りません。

人という問題がありますので、そこだけは十分に気をつけて、このまちづくりプラザを運営していただけたらなっていう、1つの希望のお話になります。

委員：さっきの人という話ですけど、この間、子育てふれあいセンターで定例教育委員会があったときに、そこに来られてたお母さん、赤ちゃんを連れられてるお母さん方から意見を聞きましようという機会があって、その時に意見を言ってくださったお母さん方がもう、すごく多可町が好きなんです。もっと多可町のことを知って欲しいんですっていうことで、ホームページをもっと気さくな感じにしたら良いんじゃないとか、もっと情報は発信して欲しいとか、たくさんの意見を言われてるのを見て、すごくパワフルというかすごいなあって感心したんです。そういう人たちが本当に、多可町が好きっていう気持ちで、動いてくださったら、すごく良いようになるんじゃないかなと思うし、本当に、これも言いたい、あれも言いたいっていう感じで、すごく沢山意見を堂々と言われてて、そういう方がどんどん機会と場所があれば、意見を多分言ってくださると思うので、そういう方の意見を拾えるような、機会があればいいなと思います。

委員：アピールの仕方でも、メインのこういったところに、多くの方々が集まれる場所というか、来ていただく場所というか、そういったものもちょっとあれば、また子ども達もいろんな刺激を貰ったり、町民もいろんなことを教えてもらったりするので、できたらお祭りとか、イベントがちょっとできるような、他の市町から来ていただくというようなことで、イベントができるようなスペースもあれば良いかなというなことは思うんですけども、できたら、特産物のコーナーとか、いつも八千代区の方でね、毎年産業展、ああいった形で、多可町の特産物を見ていただく、また持って帰っていただくというようなことだとか、今流行りのキッチンカーまつりとか、キッチンカーを何台か来ていただいでですね。何かイベントをしながら、そういったことも考えられるし、多可町を私も時々、自転車で走ります。ふと、山寄上を走ったりするんですけども、すごく良いコースがありますのでね、できたら、サイクルロード多可って名前を付けてですね、そういった中心起点として、多くの方々が集まって、多可町の良いところ景色を、楽しんでいただける、危険性も伴いますが、そんなことも含めて、多くの方々が、町外から来ていただくそういった起点の場所にもなったらいいかな。そういうふうな、他から来ていただく方々にも、多可町をアピールする良い機会かなというなことを思いました。

### 日程第3 その他

(1) 今後の総合教育会議開催について

町長：ありがとうございます。

そしたら次に日程第3の方に行かさせていただきます。その他に行かせていただきます。

その他なんですけども次回の教育総合会議につきましては、SDGsの視点から、多可町の教育について議題にしたいというふうに考えております。

すでにご承知いただいている委員さんもおられると思いますけどもこのたび、多可町は、兵庫県では4番目に県内の町としては初めてSDGs未来都市に選ばれました。内閣府が2018年から進めているこの制度は、経済社会環境の3側面の統合的な取り組みにより、新たな価値の創出を通して、持続可能な開発を実現する可能性が高い自治体が選定されたというものでございます。

多可町は林業・農業・健康・福祉・観光などの様々な分野で評価をいただいているわけですが、教育分野では、子どもが持って生まれた個性を充実、十分に伸ばしながら成長できる、子どもの最善の利益を推進する教育などが、今まさに国が進めております子ども真ん中社会を先んじて進めていることが評価をされたということでございます。

教育分野における多可町の取り組みを、SDGsの視点から深掘りして、次の展開につなげていきたいと考えますので、またご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは最後のその他に入っております。

事務局、何かございますでしょうか。

それでは本当にもう目いっぱいも昼からいっぱい時間をいただきまして誠にありがとうございました。本日の議事の予定しておりましたことはこれで終了させていただきます。

本日はどうも、ありがとうございました。

【閉会】 委員長 午後5時00分 閉会宣言

令和4年6月23日

-----  
印

-----  
印